ジョイフル城北
スマイル城北

令和７年度 学校だより
ジョイスマ
令和７年１２月１６日
熊本市立城北小学校
校長

「百聞は一見に如かず」 ～6年生修学旅行、長崎の地に学ぶ～

「12月に入っても、暖かい師走だな」と思っていました。しかし、12月4日～6日にかけて、急に冷え込みました。インフルエンザも流行期を迎え、患者の増加を心配しています。このような寒波の中、6年生は12月4日～5日の一泊二日で長崎へ修学旅行に行ってきました。この修学旅行で、「さすが6年生だ」「誇れる6年生だ」と思うことがありました。

まず、6年生の学ぶ姿勢です。修学旅行は子どもたちにとって楽しみであり、思い出作りの場でもあります。しかし、現地に直接訪問し、現地で学ぶこと「百聞は一見に如かず」が、修学旅行の第一の目的です。追悼空間（原爆殉難者名奉安所）での平和集会（写真上）、そして周辺のフィールドワーク（写真下）、被爆体験講話、原爆資料館見学、どれをとっても6年生の学ぶ目は真剣で、平和について考える姿がありました。

次に、集団行動のスピーディーさ、つまり素早さがあります。2クラスのため、場所の移動だけでなく、トイレ休憩など、何をするにも時間がかかります。旅行の日程計画は、余裕をもって計画されてはいますが、その時間のロスが積み重なり、おおむね時間が遅れがちです。しかし、全体での行動を始め、グループでの行動もてきぱきと行動し、そのおかげでホテルに到着する時間、学校に到着する時間など、全てにおいてほぼ時間通りでした。この6年生の集団行動には驚かされました。

さらに、すばらしい城北小の6年生の「あいさつ」と「返事」です。被爆体験講話をされた方、ホテルの代表の方など、6年生に関わったすべての方々から「気持ちのいいあいさつができるすばらしい子どもたちです。」と褒められました。あいさつや返事は、コミュニケーションのスタートです。相手にいい印象を与えることができる6年生は、これからもいい人間関係を築いていくことができると思います。

修学旅行での6年生の姿をいくつかあげました。その姿は、まさに城北小を支えてくれる、誇れる6年生の姿がありました。6年生のみなさん、有意義で、すばらしい修学旅行をありがとう。

さて、令和7年も残りわずかです。令和8年も本校職員一同、子どもたちの笑顔であふれ「～たい」があふれる学校をめざし、取り組んでいきます。

保護者の皆様、どうぞよいお年をお迎えください。